

## 編集後記

「社会福祉学部紀要 第14号」をお届けいたします。今号から、「社会福祉学部紀要」は、「山口県立大学学術情報」に一本化され、電子ウェブ化された形に変わりました。これも情報化社会がもたらした一つの現実ということになります。そのようななか、社会福祉学部では、紙媒体でも、紀要をお届けすることに致しました。確かに、このことは、時代の流れに逆行するのかもしれない。しかし、本誌は、社会福祉情報を必要とする人たちに向けて、可能な限り、アクセシビリティの回路が開かれているメディアでありたいというささやかな希いから、紙媒体でもお届けすることになりました。

本号では、論文7本、その他3本のエントリーがありましたが、掲載に至ったのは論文4本、調査報告2本、研究ノート・実践報告・資料各1本の9本になりました。前号より掲載本数は減りましたが、どれも血肉の通った作品に仕上がっていると、一編集子として、自負しております。

社会福祉学部では、本年度より、「重層的学生支援教育による福祉人材養成」と題する取り組みが文科省の「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に採択され、その取り組みの一環として、現在、本学部学生向けのテキスト作りが進められています。本号にもこの関連での論考が掲載されましたが、本学部の学部理念と研究教育活動を問い直し、深めていく格好の機会が与えられたこととなります。そのなかで、本学部内で展開されている専門各領域の専門性を重視しつつも、この専門性を横断的に共同化・総合化させていくような新たな試みへの可能性も、また同時に開かれているといえましょう。次号では、そうした本学部の新たな息吹をお伝えできればと、おもいます。

(中村記)